

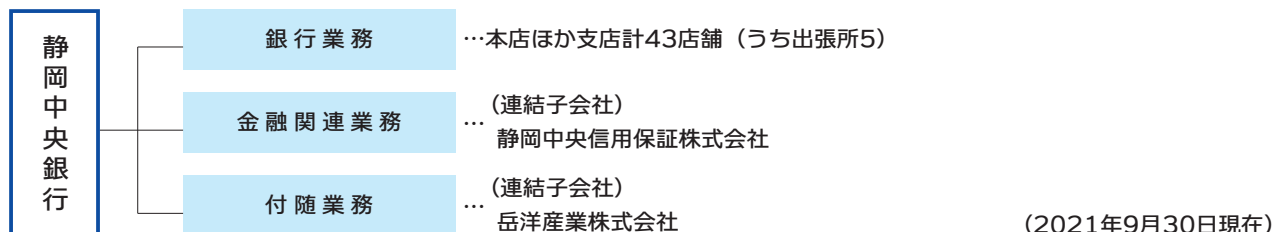
## 企業集団等の概況

### ■事業の内容

当行グループは、当行及び子会社2社で構成されており、銀行業務を中心に信用保証・調査業務、当行への不動産賃貸及びATM精査業務などの金融サービスに係る事業を行っております。

当行グループの事業内容及び関係会社に係る位置づけは次のとおりであります。

#### [事業系統図]



### ■関係会社の状況

名称	住所	設立年月日	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権割合 (%)
静岡中央信用保証株式会社	沼津市上土町1番地の1	1990年7月2日	330	信用保証・調査業務	100
岳洋産業株式会社	沼津市大手町4丁目76番地	1961年4月20日	10	静岡中央銀行への不動産賃貸及びATM精査業務	100

### ■2021年度中間期の事業の概況

損益状況につきましては、連結経常収益は前年同期比4億98百万円増収の70億36百万円、連結経常費用は前年同期比96百万円減少の54億43百万円となりました。その結果、連結経常利益は前年同期比5億94百万円増益の15億93百万円となり、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比3億85百万円増益の11億15百万円となりました。

預金につきましては、個人のお客様や中小企業のお客様を中心に前年同期末比259億61百万円増加し、7,035億31百万円となりました。貸出金につきましては、中小企業や個人のお客様を中心に前年同期末比177億41百万円増加し、5,764億9百万円となりました。

連結自己資本比率（国内基準）は、11.88%となりました。

### ■最近3中間連結会計期間及び最近2連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移

		2019年度 中間連結会計期間	2020年度 中間連結会計期間	2021年度 中間連結会計期間	2019年度	2020年度
連結経常収益	百万円	6,818	6,538	7,036	13,206	13,271
連結経常利益	百万円	1,722	998	1,593	2,291	1,825
親会社株主に帰属する中間純利益	百万円	1,211	729	1,115	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円	-	-	-	1,565	1,312
連結中間包括利益	百万円	1,991	3,206	2,348	-	-
連結包括利益	百万円	-	-	-	△1,818	7,474
連結純資産額	百万円	49,324	48,601	55,097	45,454	52,808
連結総資産額	百万円	706,477	762,581	819,711	705,747	789,144
1株当たり純資産額	円	2,055.17	2,025.05	2,295.72	1,893.93	2,200.37
1株当たり中間純利益	円	50.49	30.40	46.45	-	-
1株当たり当期純利益	円	-	-	-	65.21	54.66
自己資本比率	%	6.98	6.37	6.72	6.44	6.69
営業活動によるキャッシュ・フロー	百万円	1,852	11,092	27,974	3,770	26,127
投資活動によるキャッシュ・フロー	百万円	3,911	5,776	△2,139	2,217	△1,109
財務活動によるキャッシュ・フロー	百万円	△59	△60	△59	△120	△120
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	百万円	44,132	61,105	94,968	44,296	69,193
従業員数	人	471	475	472	450	457
[外、平均臨時従業員数]		[114]	[114]	[122]	[111]	[117]

(注)1. 当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 潜在株式調整後1株当たり中間（当期）純利益は、潜在株式がありませんので記載しておりません。

3. 自己資本比率は、（中間）期末純資産の部合計を（中間）期末資産の部の合計で除して算出しております。

## 連結財務諸表

当行グループの中間連結財務諸表は、「中間連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成11年大蔵省令第24号。以下、「中間連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」（昭和57年大蔵省令第10号）に準拠しております。

当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前中間連結会計期間（自2020年4月1日 至2020年9月30日）及び当中間連結会計期間（自2021年4月1日 至2021年9月30日）の中間連結財務諸表について、東陽監査法人の監査証明を受けております。

### ■ 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (2020年9月30日)	当中間連結会計期間 (2021年9月30日)
現金預け金	74,395	98,840
金銭の信託	954	976
有価証券	116,323	133,102
貸出金	558,667	576,409
その他資産	3,847	4,556
有形固定資産	8,446	8,402
無形固定資産	298	304
退職給付に係る資産	-	70
繰延税金資産	1,078	1
支払承諾見返	240	221
貸倒引当金	△1,671	△3,173
資産の部合計	762,581	819,711
預金	677,569	703,531
借入金	27,900	52,300
その他負債	5,281	5,398
賞与引当金	390	381
退職給付に係る負債	439	213
役員退職慰労引当金	570	639
睡眠預金払戻損失引当金	15	11
偶発損失引当金	214	207
繰延税金負債	-	352
再評価に係る繰延税金負債	1,357	1,357
支払承諾	240	221
負債の部合計	713,979	764,614
資本金	2,000	2,000
資本剰余金	0	0
利益剰余金	42,742	44,319
株主資本合計	44,743	46,320
その他有価証券評価差額金	845	5,672
土地再評価差額金	3,121	3,121
退職給付に係る調整累計額	△109	△17
その他の包括利益累計額合計	3,857	8,776
純資産の部合計	48,601	55,097
負債及び純資産の部合計	762,581	819,711

### ■ 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当中間連結会計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
経常収益	6,538	7,036
資金運用収益	4,784	5,457
（うち貸出金利息）	4,124	4,271
（うち有価証券利息配当金）	650	1,167
役務取引等収益	522	630
その他業務収益	208	10
その他経常収益	1,024	937
経常費用	5,540	5,443
資金調達費用	220	199
預金利息	220	199
役務取引等費用	676	703
その他業務費用	-	-
営業経費	3,510	3,503
その他経常費用	1,133	1,037
経常利益	998	1,593
特別利益	-	-
特別損失	0	0
固定資産処分損	0	0
税金等調整前中間純利益	998	1,593
法人税、住民税及び事業税	305	553
法人税等調整額	△37	△75
法人税等合計	268	478
中間純利益	729	1,115
親会社株主に帰属する中間純利益	729	1,115

### ■ 中間連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当中間連結会計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
中間純利益	729	1,115
その他の包括利益	2,477	1,233
その他有価証券評価差額金	2,452	1,229
退職給付に係る調整額	24	4
中間包括利益	3,206	2,348
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	3,206	2,348

## ■中間連結株主資本等変動計算書

前中間連結会計期間（自 2020年4月1日 至 2020年9月30日）

（単位：百万円）

	株主資本				その他の包括利益累計額				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当 期 首 残 高	2,000	0	42,072	44,073	△1,606	3,121	△134	1,380	45,454
当 中 間 期 変 動 額									
剰 余 金 の 配 当			△60	△60					△60
親会社株主に帰属する中間純利益			729	729					729
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）					2,452		24	2,477	2,477
当 中 間 期 変 動 額 合 計	-	-	669	669	2,452	-	24	2,477	3,146
当 中 間 期 末 残 高	2,000	0	42,742	44,743	845	3,121	△109	3,857	48,601

当中間連結会計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）

（単位：百万円）

	株主資本				その他の包括利益累計額				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当 期 首 残 高	2,000	0	43,264	45,265	4,442	3,121	△21	7,543	52,808
当 中 間 期 変 動 額									
剰 余 金 の 配 当			△60	△60					△60
親会社株主に帰属する中間純利益			1,115	1,115					1,115
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）					1,229		4	1,233	1,233
当 中 間 期 変 動 額 合 計	-	-	1,055	1,055	1,229	-	4	1,233	2,288
当 中 間 期 末 残 高	2,000	0	44,319	46,320	5,672	3,121	△17	8,776	55,097

## ■中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	998	1,593
減 価 償 却 費	195	188
貸倒引当金の増減(△)	△6	188
賞与引当金の増減額(△は減少)	17	9
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△41	△46
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	-	△70
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△6	49
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△39	26
睡眠預金払戻損失引当金の増減(△)	△0	△0
偶発損失引当金の増減額(△は減少)	△17	12
資金運用収益	△4,784	△5,457
資金調達費用	220	199
有価証券関係損益(△)	△982	△1,051
金銭の信託の運用損益(△は運用益)	△5	△2
固定資産処分損益(△は益)	0	0
貸出金の純増(△)減	△40,947	△9,796
預金の純増減(△)	48,416	15,718
備用金(劣後特約付借入金を除く)の純増減(△)	5,016	12,200
預け金(日銀預け金を除く)の純増(△)減	△2,222	10,376
資金運用による収入	4,668	5,347
資金調達による支出	△189	△195
その他	988	△360
小 計	11,277	28,929
法人税等の支払額	△184	△955
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,092	27,974

	前中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△19,509	△10,814
有価証券の売却による収入	21,140	6,271
有価証券の償還による収入	4,214	2,570
金銭の信託の増加による支出	△1,000	-
金銭の信託の減少による収入	1,000	-
有形固定資産の取得による支出	△38	△103
無形固定資産の取得による支出	△30	△63
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,776	△2,139
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△60	△59
財務活動によるキャッシュ・フロー	△60	△59
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	16,809	25,775
現金及び現金同等物の期首残高	44,296	69,193
現金及び現金同等物の中間期末残高	61,105	94,968

## ● 注記事項

(中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### 1. 連結の範囲に関する事項

- (1) 連結子会社 2 社  
岳洋産業株式会社  
静岡中央信用保証株式会社
- (2) 非連結子会社  
該当事項はありません。

### 2. 持分法の適用に関する事項

- (1) 持分法適用の非連結子会社  
該当事項はありません。
- (2) 持分法適用の関連会社  
該当事項はありません。
- (3) 持分法非適用の非連結子会社  
該当事項はありません。
- (4) 持分法非適用の関連会社  
該当事項はありません。

### 3. 連結子会社の中間決算日等に関する事項

連結子会社の中間決算日は次のとおりであります。  
9月末日 2社

### 4. 会計方針に関する事項

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- ① 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、その他有価証券については時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、ただし市場価格のない株式等については、移動平均法による原価法により行っております。  
なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
- ② 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

- ① 有形固定資産(リース資産を除く)  
当行の有形固定資産は、定率法(ただし、1998年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く。))並びに2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。  
また、主な耐用年数は次のとおりであります。  
建物: 34年~39年 その他: 5年~6年  
連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定率法により償却しております。
- ② 無形固定資産(リース資産を除く)  
無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結子会社で定める利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。
- ③ リース資産  
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、零としております。

#### (3) 貸倒引当金の計上基準

当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。  
破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下、「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下、「実質破綻先」という。)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下、「破綻懸念先」という。)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。  
上記以外の債権については、主として今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間又は3年間の貸倒実績又は倒産実績を基礎とした貸倒実績率又は倒産確率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しております。  
すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。  
なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額の取立不能見込額を債権額から直接減額しておりますが、当連結中間会計期間末及び前連結会計年度末は該当ありません。  
連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認めた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、

個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

#### (4) 賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間連結会計期間に帰属する額を計上しております。

#### (5) 役員退職慰労引当金の計上基準

役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当中間連結会計期間末までに発生していると認められる額を計上しております。

#### (6) 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。

#### (7) 偶発損失引当金の計上基準

偶発損失引当金は、信用保証協会との責任共有制度に基づき信用保証協会への負担金支払いに備えるため、将来の負担金支払見込額を計上しております。

#### (8) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当中間連結会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。また、過去勤務費用及び数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用: 発生時に一時損益処理

数理計算上の差異: 各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日連結会計年度から損益処理

#### (9) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

当行の外貨建資産・負債については、中間連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

#### (10) 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、中間連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。

## (会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下、「時価算定会計基準」という。)を当中間連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、中間連結財務諸表に与える影響はありません。

また、「金融商品関係」注記において、金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項等の注記を行うことといたしました。ただし、「財務諸表等の用語、株式及び作成方法に関する規則等」の一部を改正する内閣府令(2020年3月6日 内閣府令第9号) 附則第6条第2項に定める経過的な取扱いに従って、当該注記のうち前連結会計年度に係るものについては記載していません。

## (追加情報)

### 新型コロナウイルス感染症の影響

当中間連結会計期間において、会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定に重要な変更はありませんが、新型コロナウイルス感染状況やその経済への影響が変化した場合、第3四半期連結会計期間以降の経営成績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

## (中間連結貸借対照表関係)

## 1. 貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当中間連結会計期間 (2021年9月30日)
破綻先債権額	641 百万円	390 百万円
延滞債権額	6,558 百万円	8,170 百万円

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下、「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

## 2. 貸出金のうち3か月以上延滞債権額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当中間連結会計期間 (2021年9月30日)
3か月以上延滞債権額	— 百万円	— 百万円

なお、3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

## 3. 貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当中間連結会計期間 (2021年9月30日)
貸出条件緩和債権額	403 百万円	161 百万円

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しないものであります。

## 4. 破綻先債権額、延滞債権額、3か月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当中間連結会計期間 (2021年9月30日)
合計額	7,604 百万円	8,722 百万円

なお、上記1. から4. に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

## 5. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号 2020年10月8日）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

前連結会計年度 (2021年3月31日)	当中間連結会計期間 (2021年9月30日)
1,482 百万円	1,402 百万円

## 6. ローン・パーティシパシオンで、「ローン・パーティシパシオンの会計処理及び表示」（日本公認会計士協会会計制度委員会報告第3号 平成26年11月28日）に基づいて、原債務者に対する貸出金として会計処理した参加元本金額のうち、中間連結貸借対照表（前連結貸借対照表）計上額は次のとおりであります。

前連結会計年度 (2021年3月31日)	当中間連結会計期間 (2021年9月30日)
5,163 百万円	5,145 百万円

## 7. 担保に供している資産は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当中間連結会計期間 (2021年9月30日)
担保に供している資産		
現金預け金	0 百万円	0 百万円
有価証券	45,815 百万円	57,460 百万円
その他	18 百万円	18 百万円
計	45,834 百万円	57,479 百万円
担保資産に対応する債務		
預金	1,101 百万円	839 百万円
借入金	40,100 百万円	52,300 百万円

上記のほか、為替決済取引の担保として、次のものを差し入れております。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当中間連結会計期間 (2021年9月30日)
その他資産	2,500 百万円	2,500 百万円

また、その他資産には、保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当中間連結会計期間 (2021年9月30日)
保証金	242 百万円	238 百万円

## 8. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当中間連結会計期間 (2021年9月30日)
融資未実行残高	49,777 百万円	28,696 百万円
うち原契約期間が1年以内のもの (又は任意の時期に無条件で取消可能なもの)	48,323 百万円	28,666 百万円

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に（半年毎に）予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

## 9. 土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）に基づき、当行の事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日

1998年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める財産評価基本通達に基づいて、（興行価格補正、時点修正、近隣売買事例による補正等）合理的な調整を行って算出。同法律第10条に定める再評価を行った事業用の土地の当中間連結会計期間末における時価の合計額と当該事業用の土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額

前連結会計年度 (2021年3月31日)	当中間連結会計期間 (2021年9月30日)
2,762 百万円	2,821 百万円

## 10. 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当中間連結会計期間 (2021年9月30日)
減価償却累計額	5,747 百万円	5,839 百万円

## (中間連結損益計算書関係)

## 1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
償却債権取立益	0 百万円	0 百万円
株式等売却益	774 百万円	744 百万円

## 2. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
株式等償却	767 百万円	115 百万円
株式等売却損	—	10 百万円
貸倒引当金繰入額	234 百万円	817 百万円

(中間連結株主資本等変動計算書関係)

前中間連結会計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位:千株)

	当連結会計年度 期首株式数	当中間連結会計期間 増加株式数	当中間連結会計期間 減少株式数	当中間連結会計期間末 株式数
発行済株式				
普通株式	24,000	—	—	24,000
合計	24,000	—	—	24,000
自己株式				
普通株式	—	—	—	—
合計	—	—	—	—

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項  
該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 当中間連結会計期間中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年6月26日 定時株主総会	普通株式	60	2.5	2020年3月31日	2020年6月29日

(2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年11月13日 取締役会	普通株式	60	利益剰余金	2.5	2020年9月30日	2020年12月4日

当中間連結会計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位:千株)

	当連結会計年度 期首株式数	当中間連結会計期間 増加株式数	当中間連結会計期間 減少株式数	当中間連結会計期間末 株式数
発行済株式				
普通株式	24,000	—	—	24,000
合計	24,000	—	—	24,000
自己株式				
普通株式	—	—	—	—
合計	—	—	—	—

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項  
該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 当中間連結会計期間中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年6月29日 定時株主総会	普通株式	60	2.5	2021年3月31日	2021年6月30日

(2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年11月12日 取締役会	普通株式	60	利益剰余金	2.5	2021年9月30日	2021年12月6日

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間連結会計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当中間連結会計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
現金預け金勘定	74,395百万円	98,840百万円
定期預け金他	△13,290百万円	△3,871百万円
現金及び現金同等物	61,105百万円	94,968百万円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

①リース資産の内容

有形固定資産

出納機器システムであります。

②リース資産の減価償却の方法

中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項」の「(2) 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当中間連結会計期間 (2021年9月30日)
1年内	1	1
1年超	0	—
合計	1	1

(金融商品関係)

1. 金融商品の時価等に関する事項

中間連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等及び組合出資金は、次表には含めておりません(注1参照)。また、現金預け金は、短期間で決済されるため時価が帳簿価格に近似することから、記載を省略しております。前連結会計年度(2021年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 金銭の信託	959	959	—
(2) 有価証券			
満期保有目的の債券	1,306	1,310	3
その他有価証券	125,672	125,672	—
(3) 貸出金	566,613		
貸倒引当金(*1)	△2,778		
	563,834	570,656	6,822
資産計	691,773	698,599	6,826
(1) 預金	687,813	689,413	1,599
(2) 借入金	40,100	40,100	—
負債計	727,913	729,513	1,599

(\*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

当中間連結会計期間(2021年9月30日)

(単位:百万円)

	中間連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 金銭の信託	976	976	—
(2) 有価証券			
満期保有目的の債券	1,306	1,320	13
その他有価証券	128,525	128,525	—
(3) 貸出金	576,409		
貸倒引当金(*1)	△3,014		
	573,394	580,688	7,293
資産計	704,203	711,510	7,307
(1) 預金	703,531	703,747	216
(2) 借入金	52,300	52,300	—
負債計	755,831	756,047	216

(\*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(注1) 市場価格のない株式及び組合出資金の中間連結貸借対照表(連結貸借対照表)計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「その他有価証券」には含まれておりません。

(単位:百万円)

区分	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当中間連結会計期間 (2021年9月30日)
①非上場株式(*1)(*2)	1,235	1,198
②組合出資金(*3)	115	2,071
合計	1,351	3,269

(\*1) 非上場株式については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2019年7月4日)第5項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

(\*2) 前連結会計年度及び当中間連結会計期間において、非上場株式について減損処理を行っておりません。

(\*3) 組合出資金については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日)第27項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価:観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産または負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価:観察可能な時価に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価:観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で中間連結貸借対照表に計上している金融商品  
当中間連結会計期間(2021年9月30日)

(単位:百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券	59,261	47,475	3,366	110,103
その他の有価証券	59,261	47,475	3,366	110,103
国債・地方債等	28,370	14,085	—	42,456
社債	—	31,179	502	31,682
株式	26,770	—	—	26,770
その他(*1)	4,119	2,211	2,863	9,194
金銭の信託	—	—	976	976
資産計	59,261	47,475	4,343	111,080

(\*1) 「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日)第26項に従い経過措置を適用し、表に含まれていない投資信託の中間連結貸借対照表における金額は、18,422百万円であります。

(2) 時価で中間連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

当中間連結会計期間(2021年9月30日)

(単位:百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券	804	515	—	1,320
満期保有目的の債券	804	515	—	1,320
国債	804	—	—	804
社債	—	515	—	515
貸出金	—	—	580,688	580,688
資産計	804	515	580,688	582,008
預金	—	703,747	—	703,747
借入金	—	52,300	—	52,300
負債計	—	756,047	—	756,047

(注1) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明  
資産

## 金銭の信託

有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券については、株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。観察できないインプットによる影響額が重要な場合はレベル3の時価、そうでない場合はレベル2の時価に分類しております。

## 有価証券

有価証券については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しております。主に上場株式や国債がこれに含まれます。

公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類しております。主に地方債、社債がこれに含まれます。

相場価格が入手できない場合には、将来キャッシュ・フローの現在価値技法などの評価技法を用いて時価を算定しております。評価に当たっては観察可能なインプットを最大限利用しており、インプットには、TIBOR、国債利回り、期限前返済率、信用スプレッド、倒産確率、倒産時の損失率等が含まれます。算定に当たり重要な観察できないインプットを用いている場合には、レベル3の時価に分類しております。

## 貸出金

貸出金については、貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を市場金利に信用リスク等を反映させた割引率で割り引いて時価を算出しております。このうち変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない場合は時価と帳簿価額が近似していることから、帳簿価額を時価としております。また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの割引現在価値、又は、担保及び保証による回収見込額等を用いた割引現在価値により時価を算定しております。時価に対して観察できないインプットによる影響額が重要な場合はレベル3の時価、そうでない場合はレベル2の時価に分類しております。

## 負債

## 預金

要求払預金については、中間連結決算日に要求に応じて直ちに支払うものは、その金額を時価としております。また、定期預金については、一定の期間ごとに区分して、将来キャッシュ・フローを割り引いた割引現在価値により時価を算定しております。割引率は、市場金利を用いております。なお、預入期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。当該時価はレベル2の時価に分類しております。

## 借入金

借入金については、約定期間が短期間(1年以内)であり、時価は帳簿価格と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。当該時価はレベル2の時価に分類しております。

(注2) 時価で中間連結貸借対照表に計上している金融商品のうちレベル3の時価に関する情報

(1) 期首残高から期末残高への調整表、当期の損益に認識した評価損益

当中間連結会計期間(2021年9月30日)

(単位:百万円)

	期首残高	当期の損益又はその他の包括利益		購入、売却、発行及び決済の純額	レベル3の時価への振替(*2)	レベル3の時価からの振替(*3)	期末残高	当期の損益に計上した額のうち中間連結貸借対照表日において保有する金融資産及び金融負債の評価損益
		損益に計上	その他の包括利益に計上(*1)					
金銭の信託	959	—	16	—	—	—	976	—
有価証券	3,802	—	13	△450	—	—	3,366	—
その他有価証券	3,802	—	13	△450	—	—	3,366	—

(\*1) 中間連結包括利益計算書の「その他の包括利益」の「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

(\*2) レベル2の時価からレベル3の時価への振替であります。なお、当中間連結会計期間には該当ありません。

(\*3) レベル3の時価からレベル2の時価への振替であります。なお、当中間連結会計期間には該当ありません。

## (2) 時価の評価プロセスの説明

当行グループはリスク管理部門において時価の算定に関する方針及び手続を定めており、これに沿って各取引部門が時価を算定しております。算定された時価は、独立した評価部門において、時価の算定に用いられた評価技法及びインプットの妥当性並びに時価のレベルの分類の適切性を検証しております。検証結果は毎期リスク管理部門に報告され、時価の算定の方針及び手続に関する適切性が確保されております。

時価の算定に当たっては、個々の資産の性質、特性及びリスクを最も適切に反映できる評価モデルを用いております。また、第三者から入手した相場価格を利用する場合においても、利用されている評価技法及びインプットの確認や類似の金融商品の時価との比較等の適切な方法により価格の妥当性を検証しております。

## (3) 重要な観察できないインプットを変化させた場合の時価に対する影響に関する説明

重要な観察できないインプットとしては、クレジット・スプレッド、株価ボラティリティ等があります。

時価の算定において、クレジット・スプレッドの変動は倒産確率に影響し、株価ボラティリティは期待キャッシュ・フロー等に影響します。

時価はクレジット・スプレッド、株価ボラティリティ等のインプットから算定され、市場が変動した場合には、インプットの影響額の合算として時価が増加もしくは減少します。

## (有価証券関係)

\*1. 中間連結貸借対照表(連結貸借対照表)の「有価証券」を記載しております。

\*2. 「子会社株式」については、中間財務諸表における注記事項として記載しております。

## 1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(2021年3月31日現在)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	国債	—	—	—
	地方債	—	—	—
	社債	505	510	5
	その他	—	—	—
	小計	505	510	5
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	国債	801	800	△1
	地方債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	801	800	△1
合計		1,306	1,310	3

当中間連結会計期間(2021年9月30日現在)

	種類	中間連結貸借対照表計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
時価が中間連結貸借対照表計上額を超えるもの	国債	801	804	2
	地方債	—	—	—
	社債	504	515	10
	その他	—	—	—
	小計	1,306	1,320	13
時価が中間連結貸借対照表計上額を超えないもの	国債	—	—	—
	地方債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	—	—	—
合計		1,306	1,320	13

## 2. その他有価証券

前連結会計年度（2021年3月31日現在）

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	17,959	11,866	6,093
	債券	33,183	32,850	333
	国債	10,207	10,058	148
	地方債	5,846	5,798	48
	社債	17,129	16,993	136
	その他	21,597	19,966	1,630
	小計	72,740	64,683	8,057
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	6,693	7,695	△1,002
	債券	39,123	39,515	△392
	国債	20,014	20,323	△309
	地方債	4,840	4,856	△16
	社債	14,268	14,335	△66
	その他	7,115	7,362	△246
	小計	52,931	54,572	△1,640
合計		125,672	119,255	6,416

当中間連結会計期間（2021年9月30日現在）

	種類	中間連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	20,291	13,225	7,065
	債券	42,447	42,061	386
	国債	12,184	12,046	137
	地方債	11,000	10,933	67
	社債	19,262	19,081	181
	その他	22,248	20,348	1,900
	小計	84,987	75,635	9,352
中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	6,479	7,281	△802
	債券	31,690	31,835	△144
	国債	16,186	16,297	△110
	地方債	3,085	3,091	△6
	社債	12,419	12,445	△26
	その他	7,328	7,606	△278
	小計	45,498	46,723	△1,225
合計		130,485	122,358	8,127

## 3. 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券（市場価格のない株式等及び組合出資金を除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間連結貸借対照表計上額（連結貸借対照表計上額）とするとともに、評価差額を当中間連結会計期間（連結会計年度）の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。

前連結会計年度における減損処理額は、株式339百万円であります。当中間連結会計期間における減損処理額は、株式115百万円でありませ

す。また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、時価の下落率が簿価の50%以上である場合は、時価が「著しく下落した」ときに該当することとして減損処理を行っております。また、時価の下落率が簿価の30%以上50%未満である場合は回復可能性の判定を行い、減損処理を行っております。

## （金銭の信託関係）

### 1. 満期保有目的の金銭の信託

該当事項はありません。

### 2. その他の金銭の信託（運用目的及び満期保有目的以外）

前連結会計年度（2021年3月31日現在）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)	うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの (百万円)	うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの (百万円)
その他の金銭の信託	959	1,000	△40	—	△40

（注）「うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの」「うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの」はそれぞれ「差額」の内訳であります。

当中間連結会計期間（2021年9月30日現在）

	中間連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)	うち中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの (百万円)	うち中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの (百万円)
その他の金銭の信託	976	1,000	△23	—	△23

（注）「うち中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの」「うち中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの」はそれぞれ「差額」の内訳であります。

### （その他有価証券評価差額金）

中間連結貸借対照表（連結貸借対照表）に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

前連結会計年度（2021年3月31日現在）

	金額 (百万円)
評価差額	6,376
その他有価証券	6,416
その他の金銭の信託	△40
(△) 繰延税金負債	△1,933
その他有価証券評価差額金	4,442

当中間連結会計期間（2021年9月30日現在）

	金額 (百万円)
評価差額	8,103
その他有価証券	8,127
その他の金銭の信託	△23
(△) 繰延税金負債	△2,431
その他有価証券評価差額金	5,672

### （デリバティブ取引関係）

該当事項はありません。

### （ストック・オプション等関係）

該当事項はありません。

### （資産除去債務関係）

資産除去債務については重要性が乏しいため、注記を省略しております。

### （賃貸等不動産関係）

総資産に比べて重要性が乏しいため、記載を省略しております。



## ●セグメント情報等

### (セグメント情報)

当グループは、銀行業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

### (重要な後発事象)

該当事項はありません。

### (関連情報)

前中間連結会計期間（自 2020 年4月1日 至 2020 年9月30日）

#### 1. サービスごとの情報

(単位：百万円)

	貸出業務	有価証券投資業務	その他	合計
外部顧客に対する経常収益	4,124	1,850	563	6,538

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

#### 2. 地域ごとの情報

##### (1) 経常収益

当グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が中間連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

##### (2) 有形固定資産

当グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が中間連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

#### 3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で中間連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

当中間連結会計期間（自 2021 年4月1日 至 2021 年9月30日）

#### 1. サービスごとの情報

(単位：百万円)

	貸出業務	有価証券投資業務	その他	合計
外部顧客に対する経常収益	4,271	2,098	666	7,036

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

#### 2. 地域ごとの情報

##### (1) 経常収益

当グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が中間連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

##### (2) 有形固定資産

当グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が中間連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

#### 3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で中間連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

### (報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報)

該当事項はありません。

### (報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報)

該当事項はありません。

### (報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報)

該当事項はありません。

### (1株当たり情報)

#### 1. 1株当たり純資産額

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当中間連結会計期間 (2021年9月30日)
1株当たり純資産額	2,200円37銭	2,295円72銭

#### 2. 1株当たり中間純利益及び算定上の基礎

		前中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり中間純利益	円	30.40	46.45
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する中間純利益	百万円	729	1,115
普通株主に帰属しない金額	百万円	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する中間純利益	百万円	729	1,115
普通株式の期中平均株式数	千株	24,000	24,000

(注) なお、潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式がないので記載しておりません。